

[01] 和の文化表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/26570>

出版情報：和の文化. 1, 2012-03-31. NP0法人和の文化研究会
バージョン：
権利関係：



4. 和の文化講座「和の花」

日時／2011 年 4 月 17 日(日)午後 2 時～4 時

場所／松風園(福岡市文化交流公園)

福岡市中央区平尾 3 丁目 28 番

講師／飯富章宏(能楽師：重要無形文化財総合指定)

今村一夫(能楽師：観世流シテ方)



平成 22 年 12 月、南市民センターで新作品「桧原桜」が市民に始めて披露されました。この桧原桜は道路整備にともない伐採される予定であったものが、ある短歌をきっかけに残されることになった有名なエピソードをもとにしたものです。

今回の和の文化講座では、映像を使いながら制作に関わった能楽師自らそのエピソードを語り、さらに謡と鼓による、能の一部実演も行います。伝統芸能の現代的意義を一緒に考えてみませんか。

和の文化講座

和の花

写真はイメージです

平成 23 年 4 月 17 日(日) 時間／午後 2 時～4 時
場所／松風園

■プログラム
桧原桜の制作エピソード
能・桧原桜(一部)実演
桧原桜映像上映
南市民センターで披露された「桧原桜」を映像でご覧いただけます

■参加費／3,000 円(入園料込、抹茶と和菓子付)
※会員は 2,500 円(当日入会可)

■講師／飯富章宏、今村一夫

映像の上映、謡と鼓による一部実演も行います。

■定員／30 名
■共催・松風園、和の文化研究会
■お申込・お問い合わせは松風園まで
福岡市中央区平尾 3 丁目 28
松風園管理事務所
TEL/FAX 092-524-8264
ホームページ <http://shofuen.net>
受講を希望される方は、松風園までお電話いただくか直接事務所窓口にお申し込みください。

平成 22 年(2010 年)12 月、南市民センターで新作品「桧原桜」が市民に始めて披露された。この桧原桜は道路整備にともない伐採される予定であったものが、ある短歌をきっかけに残されることになった有名なエピソードをもとにしたものです。

和の文化講座では、映像を使いながら制作に関わった能楽師自らそのエピソードを語り、さらに謡と鼓による、能の一部実演も行った。

なお、写真原画は福岡市南区より提供

新作能「桧原桜」

新作能「桧原桜」の素材である、和歌ならびに、いきさつ。

昭和五十九年三月、南は桧原の桜九本が、道路拡張工事により伐採されることになりました。実際に一本が切れた翌日の十日未明、一人の住人が桜の白紙を掛けました。

遠前花守り殿

花あわれ

せめてはあと二句

ついの閑花を ゆるし給へ

この白紙が、偶然ある会社社長の目に触れたことをきっかけに、マスコミに桜の助命騒動が大きく取り上げられる。花を惜しむ人々の短冊や色紙が次々と桜にかけられました。

その中には、当時の進藤福岡市長の返歌もありました。

桜花惜しむ

大和心のうるわしや

どわに匂わん 花の心は

香瑞麻

その後、道路計画は変更され、八本の桜の木は伐採から救われました。

(参考資料) 土居善胤『花かげの物語』出歌社



初演：前シテの語り
土地の女(今村一夫)



間語：桧原桜のいわれを語る野村万禄



後：花の精の登場（子方：一般公募）



後シテ：筑前の花守(多久島利之)



花の精の舞

途中からシテ
の舞になる。



シテ(筑前の花守)の舞。
桜の花台の周りを舞うところ



終局：福岡の空を桜花でみだし、万民の幸福を祈る。

新作能
松原桜
クセ

人々哀しみて。無慘や。この桜。いか
にして。か。この春ばかり。残さむと
花あはれ。せめてや。せめてあと三句。
つひの開花を許し。給へや。赦させ給へ。
花守と。詠みて。桜に。掛け。置けば。思
ひの花開き。その芳香。天にも。届きさ
てハ。納受し。給ふか。花惜しむ。大和
心の。うるはしや。永久に。句は。む。花心
残る。桜守る。筑前の。空に。幣ふる。神
の御手。土へ。水へと。急ぐは。な。掬ひ
結ばん。この契り。深き。思ひに。咲
く。花の。默契の。誓ひ。なるらん

止まり居る氏の歌
花あはれ
せめてはあと三港
つひの開花を
ゆるし給え

進退一馬氏の退歌
花惜しむ
大和心のうるはしや
とれに句を
花の心は 吉原麻

退席の長年
『筑前』
にこのタイトルで開演
第一回退席長年
吉原麻氏
花を「掬う」にかけた
心を「結ぶ」にかけた
心を「結ぶ」にかけた
心を「結ぶ」にかけた